

第 4 部

まちづくりプロジェクト



まちづくりプロジェクトとは

まちづくりプロジェクトとは、前段の基本構想や基本計画で掲げる目標の実現のために、取り組むべき施策を示すものです。

基本構想や基本計画を実現するためには、様々な施策を組み合わせて取り組むことが効果的です。しかしながら本総合振興計画は、策定の性格上、6つの章に分けられ各章毎に行政或いは民間を主体とする縦断的なものとなっています。このため、組織を越えた横断的な取り組みを、具体的に示したまちづくりプロジェクトを策定することにより、町民と行政が一体となって進むべき共通の目標を持つことが出来ると考えます。

まちづくりプロジェクトの内容

I 心のふるさと・津和野定住促進プロジェクト

加速度的に少子高齢化が進むなか、人口減少による地域コミュニティの衰退は、町の活性化の阻害要因として懸念されています。このため、本町の豊かな自然や歴史的・文化的資源を最大限に生かし、「心のふるさと」として広くPRすることにより定住を促進します。また、これらの資源を有効に活用し産業振興を図るとともに、雇用の場の確保に努めます。

II 人を持って財となす・人材育成プロジェクト

「まちづくりは人づくりから」の理念のもと、津和野の持つ人的・自然的・文化的資源を有効に活用し、官民一体となって次代を担う人材の育成に力を入れます。

III 津和野・エコタウンプロジェクト

京都議定書の採択以降、地球温暖化防止対策は世界レベルの取り組みとして位置づけられるようになりました。本町においても1980年と比較して平均気温が1℃あまり上昇するなど、温暖化の傾向が現れています。

こうしたことから、新エネルギービジョンや省エネルギービジョンを策定し全町をあげて地球温暖化防止対策を推進します。

IV ゆ〜にしんさい・津和野交流プロジェクト

津和野町は、700有余年の歴史に培われた歴史的資源や、全国の一級河川で水質日本一となった清流高津川、更に県内一の標高を誇る安蔵寺山などの自然的資源を有しています。こうした資源を積極的に活用し町民同士の交流はもとより、他市町村からの交流人口の増加に努めます。

付属資料

津和野町総合振興計画等審議会委員名簿

区 域	氏 名	区 域	氏 名	備 考
津和野地域	石川 卓夫	日原地域	堀 邦至	商工会
	糸賀 盛人		村上 和則	JA西いわみ
	山本 茂		小林 敏夫	社会福祉協議会
	河田 隆資		藤井貴久男	議会
	村上 英喜		村上 義一	//
	伊藤龍一郎		三浦 英治	教育委員会
	山村 弥生		石川 愛子	一般学識経験者
	増田 清子		村上 昇	//
	坂根 和男		山脇 幸三	//
	齋藤 勲		土井 陽子	//
事 務 局	情報企画課 課 長 長嶺清見			
	情報企画課 課長補佐 久保睦夫			
	情報企画課 課長補佐 齋藤道夫			

津和野町総合振興計画等審議会【部会編成】

第1部会

氏名	齋藤 勲	糸賀盛人	坂根和男	堀 邦至	藤井貴久男	土井陽子
審議内容	①第1章 ふるさとの自然を愛し住みよい環境をつくるまちづくり ②第6章 計画実現の方策					

第2部会

氏名	石川愛子	山本 茂	伊藤龍一郎	山村弥生	増田清子	三浦英治
審議内容	①第2章 学ぶ心を育て薫り高い文化のまちづくり ②第4章 助け合う心を大切にし明るい家庭や地域をつくるまちづくり					

第3部会

氏名	村上英喜	河田隆資	村上和則	小林敏夫	村上義一	村上 昇
審議内容	①第3章 働くことを喜びとし豊かな産業を育てるまちづくり ②第5章 多くの人々と交流し開かれたまちづくり					

※太字は部会長

津和野町総合振興計画検討委員会（作業部会）委員名簿

（平成19年5月現在）

課名	職名	氏名	備考
総務住民課	主任主事	楠 寛	
行財政対策課	課長補佐	内 藤 雅 義	
健康福祉課	課長補佐 主査	下 森 定 理 山 本 恵 理	医療 福祉
商工観光課	課長補佐	松 本 康 志	
農林課	課長補佐	田 村 津与志	
環境生活課	課長補佐	竹 内 誠	
地籍調査課	主事	山 本 淳	
建設課	課長補佐	山 本 典 伸	
教育委員会	教育次長補佐 主任主事	世 良 清 美 米 本 潔	学校教育 社会教育
情報企画課	課長 課長補佐 課長補佐	長 嶺 清 見 久 保 睦 夫 齋 藤 道 夫	